

「いわき市内に避難している浪江町民の健康調査支援事業」では、避難住民の健康支援活動として、いわき市内に開設された「日赤なみえ保健室」において「サロン活動」を開催してきました。これらのサロン活動を企画・運営にあたってきた日赤なみえ保健室のスタッフの皆さんに、ママさんサロンの活動を中心にお話を伺いました。

場所： 日赤なみえ保健室(福島県いわき市)

開催日： 2017年3月8日

- 季節ごとにテーマを決めて企画していた。子どもたちの遊びは、当初は看護師がインターネットで調べて工作や体を使う遊びなどを主にやっていた。
- 当初はママにスポットを当てた取り組みだったので、保育の専門家がおらず、子どもへのかかわり方や、子どもの観察の仕方もわからなかった。
- 2年前から保育士が入って、子どもにもスポットを当てた取り組みになってきた。子どもの成長具合も観察できるようになった。成長に課題を抱えている子にも気づくこともあって、行政による対応につなげることもできた。様々な専門家がいた方が、色々なことに気づけるので望ましい。
- 子どもたちはママさんサロンで同世代の子と遊べるのを楽しみに来ている。ママたちは子育ての悩みを話したり、アドバイスが聞けることが助けとなっているとママたちは語って下さる。
- 活動を継続し人間関係が出来てくると、家庭内のことなど何でも話せるようになってきた。ここでは参加者の方は浪江の人ばかりなので、気兼ねなく話せるようだ。
- ヨガは子どもを連れて来ても参加できるところが良いみたいで(子どもはスタッフが見ていてくれるので)、いわき市内には他にはないようだ。